

1 研究テーマ

「音声言語能力を高める国語科学習の構想」

～「話す・聞く能力」を育成する段階的な支援をととして～

2 はじめに

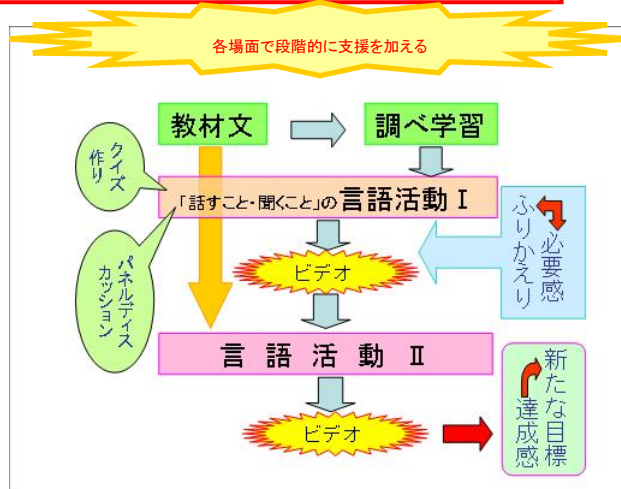
現行の学習指導要領で音声言語教育の推進が強調され、全面実施から3年が経過した。子ども達の実態を探り、音声言語教育の現状や課題を解明するとともに、理論研究をふまえて具体的な支援や解決策を講じ検証授業を展開したい。そして国語科をととして音声言語能力を高め、学ぶ力をつけて子ども達に自信をもたせたい。

3 研究の仮説

- ①単元構想の中に教材の価値を生かした言語活動を仕組み、段階的に支援することによって、児童の「話す・聞く」能力を高めることができる。
- ②「話すこと・聞くこと」を支える「書くこと」を段階的に支援することによって、児童の「話す・聞く」能力を高めることができる。
- ③明確なねらい（目標）を提示し、自己評価を取り入れることによって、児童の「話す・聞く」能力を高めることができる。

4 検証授業の展開

検証授業では、それぞれの場面で段階的な支援を加えながら、児童の「話す・聞く」能力を高めていきたいと考えた。1年・6年2つの授業実践のパターンは右図のとおりである。教材文を学習した後、図書などの資料を使って調べ学習をし、発表原稿を書き、それぞれクイズ大会、パネルディスカッションという言語活動Ⅰを行う。その様子をビデオで振り返り、話し合っ改善し、言語活動Ⅱに臨み、それを再びビデオで確認する。言語活動ⅠとⅡを比較することによって、自分自身の向上した部分、努力を要する部分などを客観的に振り返ることができれば、自信や達成感、必要感から新たな目標につながるのではないかと考えた。



仮説①: 言語活動を取り入れた単元構想における支援

ア. 明確な見通しとゴール

◆右図のような単元構想図を作成・掲示したり、1時間毎の学習計画を提示したりしたことで、児童は今日何をするのか理解し、見通しをもち、意欲的に学習に取り組むことができた。

イ. 導入の工夫

◆導入場面では、児童を前に教師が1年生ではのりものクイズ、6年生では未来予測についてモデルを示した。これにより、児



童はそれぞれの言語活動の具体的なイメージをつかむことができたと考える。

ウ. 教材の価値を生かした言語活動

◆右図は、教材文の学習からクイズ作成に至るまでの一連の流れを表示したものである。教材文での学びと言語活動とを連動させることで、後の言語活動もスムーズに展開できた。

エ. 手引きの作成

◆6年生には、文章理解をねらいに『一人学び』、言語活動へのイメージ作りのために

『パネルディスカッション』という2つの手引きを準備した。児童は手引きをもとに自主的に学習に取り組むとともに、パネルディスカッションの手順や方法を知ることによって活発な言語活動を展開することができた。



仮説②: 「話すこと・聞くこと」を支えるための「書くこと」における支援

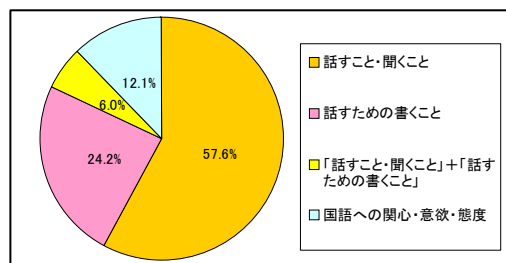
- ア. モデル原稿 - 導入時の話
- イ. 構成の例 - 順序〔結論→根拠→問題点→解決策〕
- ウ. 文型の例 - 書き出し、接続詞、敬体、主語・述語
- その他 - 「話す」までの過程、箇条書き、必要な情報のみ

◆原稿作成の場面では、「書くこと」への抵抗感をやわらげるため、左記のア～ウの支援をワークシート等で具体的に提示した。事前アンケートによれば6年生の

51.4%が「書くこと」に対して苦手意識をもっていたと思われるが、発表原稿が完成したことで授業後には86.5%が「できた」・「どちらかといえばできた」と回答した。

仮説③: 自己評価における支援

◆ここでは具体的なめあてを掲げ徐々にステップアップしながら授業を進めること、自分の学習の姿や様子をビデオで振り返る活動を取り入れ、客観的な自己評価をすることの2点を考えた。授業後のアンケートの結果、6年生の37人中33人が右グラフの項目において変容し、向上したと回答した。



5 今後の課題

音声言語能力を高めるために、今後も児童の実態に応じた適切な言語活動を数多く仕組み単元を構想していきたい。その際音声言語は一過性のものであるため、ビデオなどに活動の様子を残すことが不可欠である。また児童にもわかる具体的な目標を提示して確かな力をつけていくとともに、児童一人ひとりの変容をきちんと見取っていきたい。さらに話す力を伸ばすには「聞き手」が重要である。これまで態度・技術的な内容に偏りがちだった聞き手の感想を今後は質問や意見に変え、それらを話し手に返すような児童（聞き手）を育成したい。最後に、私自身日々教育話を磨いていきたい。教師の言葉の持つ意味・責任は大きいと考える。

6 おわりに

音声言語に関わっての研究は国語科だけに留まらず、私自身にとって学級経営、さらには社会生活の基盤となる人間関係づくりなど、人が人として生きていく上で大切なことは何かということ学んだり考えたりする機会となった。児童には双方向の伝え合いを通して人間同士の温かみややりとり（関係）ができ、母国語（日本語）を大切に成長して欲しいと願っている。私もそうあるよう努力し続けたい。